

アイヌ民族文化研究センターだより NO.36

2012年3月

●もくじ

- ・山田秀三文庫の資料から 斜里町の峰浜と朱円……………1
- ・平成24年度企画展のお知らせ……………2
- ・フィールドからデスクから その日、何が演じられたか?……………3
- ・平成24年度から公開する資料について……………4
- ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を開設します……………5
- ・寄贈を受けた資料……………6
- ・お知らせ……………8

[企画展(共催)]

アイヌ語地名を歩く

山田秀三の地名研究から

24年度は斜里町と網走市で開催します!

2012年7月7日～ 斜里町

2013年2月2日～ 網走市

詳しくは2ページ及び8ページをご覧ください。

山田秀三文庫の資料から **斜里町の峰浜と朱円 (YF0037)**

写真①

島戸狩川の川口



オホーツク管内・斜里町の、ちょうど知床半島の付け根にあたる場所に、峰浜の集落があり、そこにシマトッカリ川(島戸狩川)という川が流れています。『斜里町史』やアイヌ語地名研究者・山田秀三氏の研究によれば、この川の名は、スマ・トゥカリ・ペツ (suma・tukari・pet=石・~の手前・川) に由来するとされています。この地域の海岸が、斜里からずっと砂浜が続いていて、この川の河口を過ぎると「ごろた石」の浜になるので、こう呼ばれたのだということです。

明治以後、この地域は朱円(シュマトカリ)村とされ、大正の年代になって「朱円」が「しゅえん」と呼ばれるようになったとされています。1953(昭和28)年から、海岸付近の地域が峰浜と呼ばれるようになりました。現在は、少し内陸の、国道334号線に沿って「朱円東」「朱円」「朱円西」の集落があります。

写真①は、1974(昭和49)年7月に山田秀三氏が知床の地名を調査した記録の一部で、シマトッカリ川(島戸狩川)の河口付近の海岸のようすを撮影した写真です。写真の上から1/3あたりのところが河口部で、その向こう(斜里側)が砂浜、手前(知床半島側)がごろごろした石の浜です。

写真②は、それをやや詳しく調べているページで、上に斜里側の砂浜の写真を貼り、下に知床半島側の石の浜の写真を貼って、地形の特徴や気付いたことなどが書き込まれています。

写真②



地名はその土地につけられた名である。そこに行かなければほんとうのことは分からない。それでよく旅行した。目的地に近い駅で下車するとまず第一の仕事は土地に詳しい年配のタクシー運転手を物色することであった。その車に乗って、目的地の地形や土地の古老の居所などを聞きながら行くと参考になることが少なくない。

北見の峰浜は、前のころは朱円(しゅえん)で、さらに前はそれで「しゅまとかり」と呼んでいた。アイヌ語のシュマ・トゥカリ(石・手前)というアイヌ語地名から来た名前なのであった。地名で「手前」というのは、たいていの場合、長い砂浜をたどって行って、何かにぶつかる処に使われることは経験上知っているが、その「石」がどんなものだったかを見たいのだった。

運転手君に話すと「じょうだんでしょう。斜里からこの辺はずっと砂浜ですよ」という。まあいいから、峰浜の川を渡ったら海岸に出てくれ。何か石があるはずだから、と答えた。

浜に出たらすっかり分かった。峰浜の川(島戸狩川)までの海岸は長い砂浜なのに、川から東はがらっと変わってごろた石ばかりの海浜なのである。この地名のシュマというのは、このごろた石のことなのであった。運転手君あきれて、旦那前に来たのでしようという。いやアイヌ語を少し知っているからだよと笑った。アイヌ語の地名に嘘はない。

(山田秀三「アイヌ語地名にも地方差」北海道新聞1982年12月3日付 より)

平成24年度企画展のお知らせ

企画展「アイヌ語地名を歩く」を、夏に斜里町、冬に網走市で開催します！

アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—
2012・夏 斜里／知床

期間：2012(平成24)年
7月7日(土)～8月26日(日)
会場：斜里町立知床博物館(斜里郡斜里町本町49-2)

当研究センターでは、平成16年度から毎年、当研究センターが所蔵する資料の紹介を中心とした企画展を、道内各地で開催してきました。

平成24年度は、斜里町立知床博物館と北海道立北方民族博物館との共催により、アイヌ語地名研究の第一人者・山田秀三氏の研究資料をとらしてアイヌ語地名の世界を紹介する「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—」を、斜里町と網走市で開催します。

* * * * *

まず、夏の知床・斜里町の斜里町立知床博物館で、7月7日(土)から8月26日(日)まで開催します。ここでは、斜里町をはじめ、知床半島に関する山田氏の地名調査資料を紹介していく予定です。

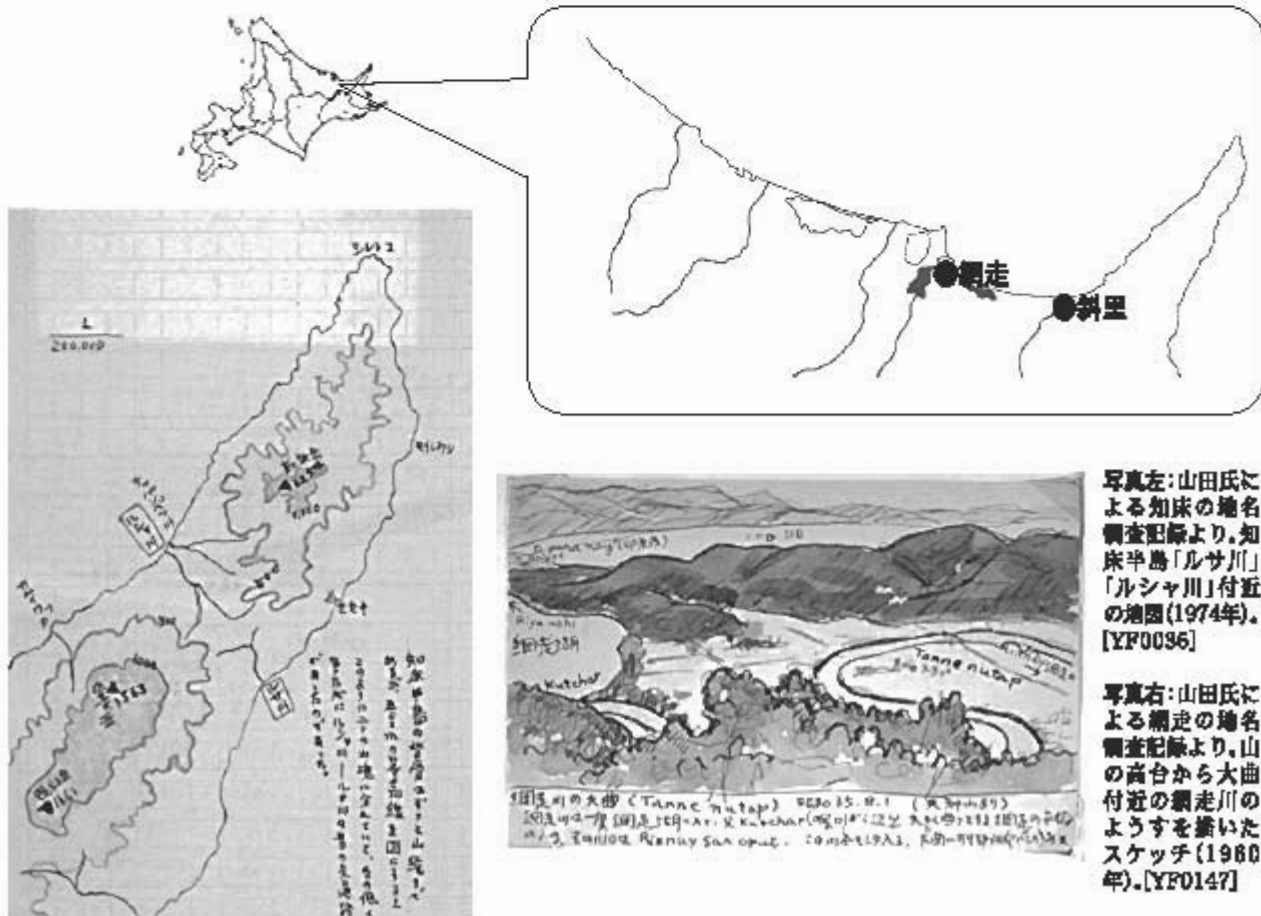
アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—
2013・冬 網走／オホーツク

期間：2013(平成25)年
2月2日(土)～4月7日(日)
会場：北海道立北方民族博物館(網走市字瀬見309-1)

そして冬の網走・北海道立北方民族博物館で、来年(2013=平成25)年2月2日(土)から4月7日(日)まで開催します。ここでは、網走をはじめ、ひろくオホーツク管内の地名調査資料を紹介する予定です。

展示期間中には、両会場とも、展示解説の講座や、開催地域のアイヌ文化に関連する講演会の開催などを予定しています。詳しい日程や講演会のテーマなどは、決まり次第、当研究センターのホームページに掲載するほか、チラシ・ポスターを通してお知らせします。

斜里での開催はちょうど学校の夏休み、網走での開催はちょうど流氷のシーズンです。多くの皆様のご来場をお待ちしています。



写真左：山田氏による知床の地名調査記録より、知床半島「ルサ川」「ルシャ川」付近の地図(1974年)。
[YF0036]

写真右：山田氏による網走の地名調査記録より、山の高台から大曲付近の網走川の様子を描いたスケッチ(1980年)。
[YF0147]

フィールドからデスクから

その日、何が演じられたか？ 田辺尚雄氏ノートに記された1923年6月の「東京人類学会例会」

当研究センターのホームページでは、アイヌ文化やアイヌ文化研究に関わるいくつかのテーマで連載を行っています。その中の「アイヌ音楽の録音・録画のあゆみ」では、これまでに「音楽学者・田辺尚雄氏による樺太アイヌ音楽の録音(1)」「同(2)」を掲載しました。本稿は、上記連載で紹介できなかった、田辺尚雄氏の樺太調査行のきっかけについての記事です。ホームページの記事と併せてご覧ください。

田辺尚雄氏(1883-1984)は、1923年8月、樺太(サハリン)でアイヌ音楽の現地調査と録音を行った、音楽学者としては初めての人物です。

田辺氏が、樺太行きを決意したそもそものきっかけには、アイヌ語やアイヌ口承文芸の研究でつとに名を知られる金田一京助氏(1882-1971)が大きく関わっています。田辺氏は次のように記しています。

「私が東洋音楽研究の一部として、アイヌ及びギリヤーク、オロツク等の北方人の音楽舞踊を調査する為めに、樺太へ行ってみたいといふことは、かなり以前から計画して居たことではあるが、〔中略〕大正十二年六月に東京帝大の人類学教室に於て、アイヌ学者金田一君のアイヌ歌謡に関する講演と、一アイヌ少女の実演とを聞くに及び、急に万難を排して其の实地調査を試みたいと決心し、¹

「金田一氏に相談し、北海道及び樺太アイヌの知人に紹介状を頂戴して、七月に佐渡郷土芸能調査を終って急に樺太に行くことにした。」²

田辺氏に樺太行きを決意させたこの催しとは、1923年6月16日に東京帝国大学で開催された「東京人類学会」の第372回例会と考えられます³。この例会で、アイヌ文化の伝承者であり当時金田一宅で働いていた平取出身の鍋澤ユキ氏が口承文芸を口演し、金田一氏がその解説を行ったことが報告されています。

* * * * *

ところで、この日、鍋澤氏がどのような内容の口承文芸を演じたかについて、金田一氏が具体的に述べているものは今のところ見当たりません。金田一氏は、口承文芸をはじめとする鍋澤氏からの聞き書きも多く遺していますし、この日東京人類学会の会場へ行くまでのエピソードなどを記した文章もありますが、かんじんの演目については「民族の神謡をお聞かせすることを思い立ったが」⁴などと記されているだけです。

1 田邊(1927) 113頁

2 田邊(1982) 197頁

3 『人類学雑誌』第39巻第1号(1924) 47頁にこの例会の記事が掲載されています。また、金田一京助「万葉集の歌とアイヌの歌謡」(金田一(1993)所収)、同「アイヌの芸能」(同前)などに、この東京人類学会例会の始まる前後の鍋澤氏のエピソードが記されています。

4 金田一(1993) 378頁

『人類学雑誌』の報告記事にも、「アイヌ神曲演奏」「四曲を演奏せり」とあるだけで、演題や筋書きといった詳しいことには触れていません。

* * * * *

さて、田辺氏の研究資料の中にはこの講演を聞きながらとったと思われるノートが残されています。

ノートの翻刻⁵を参照すると、当日の演目のひとつは「hanchikiki」「hantokkuriwa kororo」「esokisokiya」「hanchipiya」といった折返しをもつ神謡であったことがわかります。これは「ハンチキキ—雀の酒盛—」などの表題で金田一氏が発表している神謡⁶と同じものと考えられます。田辺氏のノートは、「4曲を演奏」したうちのひとつが「雀の酒盛」の神謡であったことを裏付ける、重要な資料といえるでしょう。

さらに重要な情報として、田辺氏はノートに数字譜を記しています(数字譜とは、算用数字で相対音高を示し、数字に付した傍線や点などの記号でリズムを表わす記譜法です)。これによって、この日に口演された神謡の持つメロディを、断片的にはありますが、うかがい知ることができます。

旋律に乗せて語る神謡の鑑賞に際し、旋律構造を分析的に聴き、それをその場で記譜する音楽的リテラシーを備えた音楽学者ならではの、貴重な情報を記したノートが遺されたといえるでしょう。

(研究職員・甲地利恵)

参考文献

- 田邊尚雄 1927『樺太土人の音楽』『島國の唄と踊』磯部甲陽堂
田辺尚雄(録音・調査)、田辺秀雄(企画・監修) 1978『南洋・台湾・樺太諸民族の音楽』東芝EMI株式会社
田辺尚雄 1982『続 田辺尚雄自叙伝』邦楽社
平凡社(編) 1982『田辺尚雄』の項『音楽大事典』第3巻 平凡社
日本人類学会(編) 1983(復刻)『人類学雑誌』第一書房
金田一京助 1993『金田一京助全集 8』三省堂
篠原智花・笹倉いる美 2008「北海道立北方民族博物館所蔵の田辺尚雄氏樺太調査関連資料について(2)」『北海道立北方民族博物館紀要』第17号 北海道立北方民族博物館

5 篠原・笹倉(2008) 65-66頁

6 金田一氏によって筆録された、同じ折返しをもつ神謡「ハンチキキ—雀の酒盛—」のテキスト(アイヌ語原文・日本語対訳)は、「ユーカラ概説」(金田一(1993) 117-123頁)で読むことができます。

平成24年度から公開する資料について

平成24年春から公開する資料についてお知らせします。資料の一覧は下の表のとおりです。

■研究センター 音声資料

当研究センターの職員が各地の伝承者・体験者等から採録した資料です。

今回は、門別町（現・日高町）・平取町・旭川市・三石町（現・新ひだか町）・様似町などで採録した資料計7点を新たに公開します。

■久保寺逸彦文庫 音声資料

これまでに引き続き、アイヌ口承文芸やアイヌ民俗調査の資料を中心に公開を進めています。今回は、門別町（現・日高町）で採録された口承文芸の資料のほか、久保寺氏が自身の研究の歩みを自ら語った録音など計6点を新たに公開します。

■山田秀三文庫 文書資料

知床などでの地名調査の記録ファイルなど、4点を新たに公開します。

◆ 公開開始時期について

平成24年4月から公開を開始する予定ですが、公開用複製を作成する時期によって、一部は6月頃からの公開開始になるものがあります。詳しくは当研究センターまでお問い合わせください。

◆ 利用について

現在のところ、研究センターの閲覧コーナーで視聴や閲覧ができます。音声資料はコンピューターで、映像資料は複製DVDで視聴できます。写真資料・文書資料はプリンターからの紙焼きを閲覧していただいています。

なお、資料の複写は行っていません。

※ 4月以降、「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の開設に伴い、音声資料の一部はインターネット上から聞くことができるようになる予定です。詳しくは、次ページ下段の「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の記事をご覧ください。

〔資料の一覧〕

■ 研究センター音声資料(職員採録)

公開用 資料番号	表題	語り手(敬称略)	採録年月日	採録地	原資料番号
資料のあらまし					
CC800224	アイヌ語厚別方言基礎語彙調査 1	松島トミ	1995(平成7)年2月15日	門別町(現日高町)豊田	CC000336-01
CC800225	アイヌ語厚別方言基礎語彙調査 2	松島トミ	1995(平成7)年4月20日	門別町(現日高町)豊田	CC000336-02
CC800226	アイヌ語厚別方言基礎語彙調査 3-1	松島トミ	1995(平成7)年8月10日	門別町(現日高町)豊田	CC000336-03
CC800227	アイヌ語厚別方言基礎語彙調査 3-2	松島トミ	1995(平成7)年8月10日	門別町(現日高町)豊田	CC000337
門別町(現日高町)の松島トミ氏から、アイヌ語の基礎語彙(服部四郎・知里真志保「アイヌ語諸方言の基礎語彙統計学的研究」(『民族学研究』第24巻第4号、1960年)の調査項目200に準拠しています)について採録したものを。					
CC800228	平取町の伝承 34	上田トシ	2001(平成13)年12月20日	平取町旭	CC001189
平取町旭の上田トシ氏による、ウエベケレという口承文芸(クマの神が人間の女を好きになって殺して自分の妻にしようとしたが、トリカブトの女神がその女に化けてクマを殺した、というあらすじ)の口演などを採録したものを。					
CC800230	信仰に関すること: 熊田ハツエさん	熊田ハツエ	2004(平成16)年7月21日	旭川市	CC001243
旭川市の熊田ハツエ氏から、夢見、まじないなどについて聞き取りしたものを。					
CC800231	信仰に関すること: 繁田ミツさん	繁田ミツ	2004(平成16)年9月27日	様似町	CC001245
様似町の繁田ミツ氏から、カッパに関することや昔の葬儀などについて聞き取りしたものを。					
CC800232	信仰に関すること: 相川コトさん	相川コト	2004(平成16)年9月27日	様似町	CC001246
様似町の相川コト氏から、まじないや、危急のときの叫び声などについて聞き取りしたものを。					
CC800229	三石地方の伝承 14		1998(平成10)年9月25日	三石町(現新ひだか町)	CC000756
三石町(現・新ひだか町)在住の80代(採録当時)の女性から、子守歌、古老の思い出、先祖供養に関する事などについて聞き取りしたものを。					

■ 久保寺逸彦文庫音声資料

公開用 資料番号	表 題	語り手(敬称)	採録年月日	採録地	原資料番号
資料のあらまし					
KC800105、106	平賀サダモ 会話	平賀さだ	不明	門別町(現日高町)	KC000080
門別町(現日高町)の平賀さだ氏から、主にアイヌ語の日常会話(神保小虎・金沢庄三郎著『アイヌ語会話字典』、金港堂、1898年に記された単語や文例をもとにしている)について聞き取りしたもの。					
KC800107	口頭文芸 門別 1	平賀さだ	不明	門別町(現日高町)	KC000086
門別町(現日高町)の平賀さだ氏による、口頭文芸(カムイユカラ3編)の口演を録音したもの。					
KC800108	アイヌ研究の思い出 (1)	久保寺逸彦	1971(昭和46)年7月7日~8	東京都	KC000154
KC800109	アイヌ研究の思い出 (2)	久保寺逸彦	1971(昭和46)年7月7日~8	東京都	KC000155
KC800110	アイヌ研究の思い出 (3)	久保寺逸彦	1971(昭和46)年7月7日~8	東京都	KC000156
久保寺逸彦氏が、晩年、自身の研究の歩みを振り返った談話を自ら録音したもの。					
KC800111、112	アイヌ研究の思い出 : 久保寺氏によ	久保寺逸彦	不明	東京都	KC000149
久保寺逸彦氏が、晩年、自身の研究の歩みに関連する随筆等の自著を、自ら朗読したもの。					

■ 山田秀三文庫文書資料

資料番号	表 題	資料のあらまし
YM0005	登別 室蘭	登別、室蘭地域の地形図や文献、絵葉書などを一括したもの。
YF0035	知床紀行 I シベツ ラウス	1974(昭和49)年7月、釧路から標津に出て、知床半島を羅臼、知床岬、斜里町ウトロの順に廻り、斜里をへて網走市藻琴まで地名を調査した記録。羅臼・ウトロ間は岬を回る観光船に乗って、海から地形を観察している。
YF0036	知床紀行 II ラウス・ウトロ(舟)	
YF0037	知床紀行 III ウトロ・モコト	

アイヌ語音声資料を検索し、聞くこともできる

「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を開設します。

「アーカイブ」とは、いっばんに、さまざまな記録資料を保管し後世に伝えていく施設のことをいいます。「後世に伝える」とは、ただ保存するばかりでなく、みんなの財産として活用していくことを目的としています。「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」という名称には、北海道のアイヌ語・アイヌ文化の記録資料を、保存・整理し、これからのアイヌ語・アイヌ文化のために活用していく、という意味を込めています。

* * * * *

当研究センターが所蔵する「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」には、昭和初年に道内各地やサハリン(樺太)で録音された口承文芸や歌謡のレコードをはじめ、伝承者・体験者から録音されたアイヌ語・アイヌ文化の貴重な記録が多数含まれています。これらの貴重な録音を保存し整理し、公開していくことは、アイヌ語の学習の機会を充実させ、アイヌ語の継承・復興のための基盤を整備することにつながる、重要な意味を持っています。

当研究センターでは、このような考え方にに基づき、これまで、「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」や当研究センターの職員が録音した資料などの公開を進めてきました。今年度からは内閣府の助成を受けて「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」を開始し、アイヌ語資料の整理と公開・提供の一層の充実を図るため、次のような事業に取り組んでいます。

● 当研究センターで公開している音声資料を、インターネット上で検索することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を開設します。

公開の承諾をいただいた資料については、インターネット上でもアイヌ語の音声聞くことができるようになります。

● 資料の整理・公開のスピードをあげ、公開資料の点数を増やします。

たとえば、久保寺逸彦文庫の昭和初年のアイヌ語録音レコードについては、今後1~2年でほぼ全点を「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」に収録します。

● 当研究センターのほか、道立図書館や北海道開拓記念館が所蔵する貴重なアイヌ語録音資料についても検索できるようにし、文字どおり北海道のアイヌ語資料のアーカイブにしていきます。

* * * * *

「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の開設は、平成24年5月を予定しています。インターネット上のアドレスなどは、決まり次第、当研究センターのホームページ等を通してお知らせいたします。

最後になりましたが、貴重な録音資料の公開について承諾をいただきました語り手やそのご遺族など関係者の方々及びこの事業の取り組みにご協力いただいた皆様に、改めて感謝とお礼を申し上げます。

寄贈を受けた資料

(2011年9月～2012年2月)

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。
資料を寄贈していただいた方々・機関にお礼を申し上げます。

アイヌ語地名研究会

・アイヌ語地名研究会会報 第42号、第43号

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構

・2010年度 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
アイヌ文化活動アドバイザー派遣事業報告
・平成23年度「アイヌ語ラジオ講座」テキスト Vol.3

旭川市博物科学館

・旭川市博物科学館報 Vol.4

朝日町歴史博物館

・平成23年度企画展 「連歌と一揆 一柿城の時代―」

安藤仁介

・人権問題研究叢書2 アイヌ・台湾・国際人権

石黒克彦

・菅江真澄と噴火湾

宇梶静江

・大地よ 東日本大震災によせて [CD]

潮出版社

・潮 通巻第632号、第633号

帯広叢書刊行会

・虻田第二尋常小学校同窓会資料4

学習院大学史料館

・ミュージアム・レター No.17、No.18

神奈川大学日本常民文化研究所

・民具マンスリー 第44巻第4号～第10号
・神奈川大学日本常民文化研究所 [要覧] 2011年度

北の縄文文化を発信する会

・縄文人はどこからきたか? : 北の縄文連続講座・記録集

九州歴史資料館

・九州歴史資料館年報 平成22年度

・九歴だより No.34

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

・田邊尚雄・秀雄旧蔵 楽器コレクション図録

クナウマガジン

・northern style スロウ Vol.29

熊谷たみ子

・カムイ レン カイネ/Amazing Grace [CD]

グラフ青森

・グラフ青森 青森の暮らし No.375

高知県牧野記念財団

・高知県立牧野植物園だより No.47、No.48

・高知県立牧野植物園 年報 第10号(2010)

弘南堂書店

・北方関係を主にした 弘南堂古書目録 第52号

神戸市立博物館

・博物館だより No.100

國學院大學北海道短期大学部

・國學院大學北海道短期大学部紀要 第28巻

国立民族学博物館

・月刊みんぱく 第35巻第9号 通巻第408号～

第36巻第2号 通巻第413号

・国立民族学博物館研究報告 第36巻1号、第36巻2号

・民博通信 No.134、No.135

・MINPAKU Anthropology Newsletter No.32、

No.33

・国立民族学博物館研究年報 2010

児島恭子

・函館市北方民族資料館 講座 ミュージアムトーク
アイヌ文化の謎を探る 文様の神秘と呪術

佐々木利和

・蝦夷地日用集

札幌学院大学

・北海道および周辺地域における他動性交替と文法関係

札幌市文化資料室

・文化資料室ニュース 第15号

サッポロ堂書店

・サッポロ堂古書目録35 北海道文献目録2011～12

沙流川歴史館

・2011特別展 沙流川流域のチャシ跡

・沙流川歴史館だより No.42、No.43

三元社

・ことばと社会 13号

ジェイアール東日本企画 トランヴェール編集部

・トランヴェール 第24巻第10号

滋賀大学経済学部附属史料館

・平成23年度企画展 「江戸時代の近江を旅する―
湖東・湖北の名所を中心に―」

『四宅ヤエの伝承』刊行会

・富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 韻文編2

市民外交センター

・市民外交センター 2010年 年次報告書

杉山四郎

・空知・アイヌ民族の足跡 : その素描の試み

世界人権問題研究センター

・グローブ No.67、No.68

・人権問題研究叢書4 講座・人権ゆかりの地をたずねて

先住民族の10年市民連絡会

・先住民族の10年News 第177号～第181号

高木崇世芝

・近世日本の北方図研究

・江戸時代の北方古写図 [絵葉書]

伊達市開拓記念館

・伊達市開拓記念館所蔵 互理伊達家史料

田邊秀雄

・音楽三世 田邊秀雄 自叙伝

知多市歴史民俗博物館

・知多市歴史民俗博物館年報 第12号(平成22年度)

千歳市

・『新千歳市史』編さんだより 志古津 第14号

千葉大学ユーラシア言語文化論講座

・千葉大学ユーラシア言語文化論集 第13号

千葉伸彦

・久保寺逸彦の収録したトンコリ楽曲の基礎資料
(五線譜を含む)

・阿寒のうた [ウポポ]

常本照樹

・アイヌ民族と教育政策 : 新しいアイヌ政策の流れの
なかで 札幌大学附属総合研究所BOOKLET 第4号

出村文理

・出村文理 著作目録

天理大学附属天理参考館

・天理大学附属天理参考館80年のあゆみ

・天理参考館報 第24号

東京都歴史文化財団、東京都江戸東京博物館

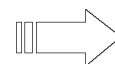
・江戸東京博物館NEWS Vol.75、Vol.76

東北芸術工科大学東北文化研究センター

・季刊 東北学 第29号、第30号

- ・東北文化友の会会報 まんだら Vol.49、Vol.50
- 東北大学東北アジア研究センター**
- ・東北大学東北アジア研究センター ニュースレター CNEAS 第51号
- 東北福祉大学芹沢 介美術工芸館**
- ・東北福祉大学芹沢 介美術工芸館 年報2 2010
- 仲尾宏**
- ・人権問題研究叢書3 朝鮮通信使と京都
- 長野県立歴史館**
- ・平成23年度 長野県立歴史館 春季展 武士の家をかたりつがれた御家の由緒
- ・平成23年度 夏季企画展 激動を生きぬく 信濃武士市河氏の400年
- ・長野県立歴史館だより Vol.68～Vol.70
- ・平成23年度 秋期企画展 観光地の描き方 : 浮世絵版画から 観光パンフレットまで
- 日本民話の会**
- ・アイヌ民話のふるさと 二風谷の手帖
- ノーザンクロス**
- ・カイ Vol.13、Vol.14
- 函館市教育委員会**
- ・特別史跡 五稜郭跡 平成18・21・22年度 復元整備事業に伴う発掘調査報告書
- ・特別史跡五稜郭跡 復元整備事業報告書
- ・特別史跡五稜郭跡 復元整備事業報告書 図版編
- 反差別国際運動日本委員会**
- ・IMADR-JC 通信 No.167、No.168
- 平取町**
- ・アイヌ文化環境保全対策調査 調査報告書 2009-1010
- ・アイヌ文化環境保全対策調査 調査報告書 [2003～2010年報告書5冊収録DVD]
- 弘前学院大学地域総合文化研究所**
- ・北日本・民族文化の考古学・考現学講座 : 縄文文化とアイヌ文化の大きい住居の比較考古学・考現学 資料集
- ・縄文琴の研究 是川中居遺跡出土篋形木製品に関する 研究報告書
- 福井県立歴史博物館**
- ・鉄道博覧会 日本と福井の鉄道のあゆみ
- 福島県立博物館**
- ・博物館だより 91
- プロコーフィエフほか**
- ・サハリンと千島の擦文文化の土器 : サハリンと 千島へのアイヌ民族の進出
- 文化学園図書館**
- ・図書館だより No.153
- 別海町郷土資料館**
- ・別海町郷土資料館だより No.141～No.146
- 北海学園大学学術研究会**
- ・北海学園大学学園論集 第148号、第149号
- 北海道アイヌ協会**
- ・先駆者の集い 第123号、第124号
- 北海道開拓記念館**
- ・北海道開拓記念館だより Vol.41 No.3
- ・北海道開拓記念館 開館40周年記念事業 シンポジウム 「北海道博物館と魅力ある地域づくり」
- ・豆本57 小嶋コレクションにみるアイヌ文化の世界 : なぜ民芸品店主が民具を集めたのか?
- ・小嶋新三・慧子コレクション 資料目録 北海道開拓記念館一括資料目録 第40集

- 北海道ジェイ・アール・エージェンシー**
- ・The JR Hokkaido No.284、No.287
- 北海道大学**
- ・リテラ・ポプリ 第45号、第46号
- 北海道大学アイヌ・先住民研究センター**
- ・北海道大学アイヌ・先住民研究センターニュースレター 第1号
- 北海道大学GCOEプログラム「境界研究の拠点形成」、北海道大学アイヌ・先住民研究センターほか**
- ・北米先住民ヤキの世界
- 北海道大学出版会**
- ・佐藤昌介とその時代 [増補・復刊]
- 北海道大学総合博物館**
- ・北海道大学総合博物館ニュース 第23号
- 北海道豊富高等学校郷土研究部**
- ・とよとみの民話 第1集 子育て地蔵
- ・とよとみの民話 第2集 万願山
- ・とよとみの民話 第3集 音吉の杜
- ・とよとみの民話 第4集 言問の松
- ・とよとみの民話 第5集 温泉霊場
- ・とよとみの民話 第10集 漁業のあけぼの 稚咲内
- ・とよとみの民話 第11集 サロベツ足跡物語 豊徳・落合・西豊富
- ・とよとみの民話 第13集 山〔くま〕の教え 錯覚・熊祭り
- 北海道文化財保護協会**
- ・文化情報 第327号～第330号
- ・北海道の文化 Vol.84
- 北海道埋蔵文化財センター**
- ・千歳市キウス5遺跡(9) 北海道埋蔵文化財センター 調査報告書第284号
- ・白滝遺跡群XII 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第286集 第1分冊、第2分冊
- 北海道立総合研究機構 環境・地質研究本文 地質研究所**
- ・北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所 年報 平成22年度
- 北海道立北方民族博物館**
- ・北海道立北方民族博物館第26回特別展図録 ウイルタとその隣人たち
- ・北方民族博物館だより No.81～No.83
- ・平成22年度年報
- 幕別町教育委員会**
- ・幕別町ふるさと館 アイヌ民族資料目録
- 宮崎県総合博物館**
- ・森の通信 第51号
- 盛岡市先人記念館**
- ・盛岡市先人記念館だより No.47
- もりおか歴史文化館**
- ・もりおか歴史文化館だより 1
- ヤイユーカーの森**
- ・Yay Yukar Park 71、72
- 和合会**
- ・八重垣 第46号



センターのホームページでは、寄贈を受けた資料のほか、購入した資料などについてもお知らせしています。

行事など

■平成24年度企画展

「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2012・夏 斜里/知床」
「2013・冬 網走/オホーツク」を開催します。

2ページでも伝えたとおり、平成24年度の企画展を、斜里町と網走市で開催します。

●斜里町

会場：斜里町立知床博物館

(斜里町本町49-2)

期間：2012(平成24)年7月7日～8月26日

●網走市

会場：北海道立北方民族博物館

(網走市字潮見309-1)

期間：2013(平成25)年2月2日～4月7日

また、関連事業として、斜里町と網走市でのそれぞれの会期中に、講座や講演会を開催する予定です。日時、演題、講師など詳細は追って当センターのホームページその他でお知らせします。

■平成23年度企画展「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から」
「2011・稚内」「2011・名寄」が終了しました。

平成23年度の企画展を、稚内市の2会場で9月16日～10月30日に、名寄市で11月19日～12月25日に開催し、無事終了しました。会期中は、多くの皆様のご来場、アンケートへの多数のご協力をいただき、ありがとうございました。

会場のような(名寄市北国博物館)



■講座、講演会が終了しました。

「2011・名寄」企画展の関連事業として、11月19日に名寄市北国博物館において講座と講演会を開催しました。

●展示解説講座 講師：当センター職員



●講演会「名寄・道北のアイヌ文化をさぐる」

- ・「山を越えた名寄アイヌの交流
—北風磯吉さんの情報を中心に—
講師：田村将人氏(北海道開拓記念館)
- ・「道北のアイヌ文化—イナウを中心に—
講師：北原次郎太氏(北海道大学)



上：講師の田村氏(左)と北原氏(右) 下：講演会会場のようす



平成23年度後半の動き

■人事短信

10月7日付

(退職) 研究職員 澤井 春美

■行事・研修等

- ・教育史学会第55回大会(京都市・京都大学/10月/発表：小川)
- ・「大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究(研究代表：北海道大学農学部 加藤克)」(札幌市・北海道大学/12月、3月/参加：古原)
- ・平成23年度アイヌ民族文化研究センター運営協議会(札幌市・当研究センター会議室/2月)
- ・東京学芸大学フォーラム「帝国日本と国語・教科書」(東京都・東京学芸大学/3月/発表：小川)

センターの刊行物

平成23年9月から平成24年3月までに、この『センターだより』36号のほか、次の刊行物を発行しました。

『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』18号

(以下は表題と執筆者名です)

【論文】アイヌ語千歳方言における名詞抱合：その種類と関連諸規則

佐藤 知己

【論文】アイヌ口承文芸に描かれたイヌエンジュ、エゾニワトコの神格について

安田 千夏

【研究ノート】伝統的なアイヌ音楽のモノフォニーの歌唱形式におけるポリフォニー的要素

甲地 利恵

【研究ノート】アイヌの犬樫関係資料概要—ロシアの博物館所蔵品について—

萩原 真子・古原 敏弘

【資料紹介】北海道文学館所蔵「知里真志 保遺稿ノート」の細目次

北原 次郎太・小林 美紀・八谷 麻衣

・『研究紀要』は、北海道行政情報センター(道庁別館3F/011-231-4111内線22-389、または011-241-7979)で有償頒布しています。

・『センターだより』は、当センターのホームページでもご覧いただけます。

◎『研究紀要』に掲載の論文等のうち、一部は当センターのホームページからPDFでご覧いただけます。どうぞご利用ください。

アイヌ民族文化研究センターだより No.36

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

2012年3月23日

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 緑苑ビル1F
(北海道庁緑苑ビル庁舎)

電話 011-272-8801(代) FAX 011-272-8850

月～金/9:00～17:00(土・日・祝日/休)

URL <http://ainu-center.pref.hokkaido.jp>

E-mail hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp

この広報誌は、環境に配慮した用紙を使用しています(古紙配合率100%、白色度70%)。